

## 「10・25 さようなら原発 さようなら戦争 日立駅前行動」の呼びかけ

茨城大学名誉教授 小林 正典

9・23 さようなら原発 さようなら戦争全国集会 in 代々木公園」は、大江健三郎さん(おおえ けんざぶろう、1935年1月31日 -)、澤地 久枝さん(さわち ひさえ、1930年9月3日 -)、内橋 克人さん(うちはし かつと、1932年7月2日 -)、落合 恵子さん(おちあい けいこ、1945年1月15日 -)、鎌田 慧(かまた さとし、1938年6月12日 -)、坂本 龍一(さかもと りゅういち、1952年1月17日 -)、辻井 喬さん(つじい たかし(本名 堤清二つつみ せいじ)、1927年3月30日 - 2013年11月25日)、鶴見 俊輔さん(つるみ しゅんすけ、1922年(大正11年)6月25日 - 2015年(平成27年)7月20日)、そして瀬戸内寂聴さん(せとうち じゃくちょう、1922年(大正11年)5月15日 -)などが呼びかけ人となり始めた「さようなら原発1000万人署名」の運動がそのもとになっていました。

現在の署名数は、2015年08月21日 集計 8,517,316 人分となっています。

この署名は 1,000 万人に達するまで続けることになっています。

「福島第一原発事故から現在に至って、壊れた原子炉は修理することができず、放射能を出し続けています。また、多くの福島県民が今も避難生活を余儀なくされています。原発に反対する私たちの声を、政府や国会に届けましょう。国の政策を原発推進・企業優先・目先の利益優先から、脱原発で命優先、市民優先に変えていきましょう。引き続き署名にご協力をよろしくお願いします。」と呼びかけ人のみさんは訴えています。

わたしたちは

9月23日13:30～約1時間、日立駅前でこの全国集会に同期して集会を開催しました。17名の市民が個人の意思で集まり、いまの思いを個々人が自由に表明しました。

日立製作所の影響が強いこの日立市でこのような運動が始まったことは意味があるものと考えています。

さていまの日本をふりかえてみますと、

残念なことに、2015年8月11日に鹿児島県薩摩川内市に立地した九州電力川内原子力発電所が再稼働されてしまいました。

地元の再稼働反対の運動の中、それは強行されてしまったのです。

何かおかしい。何かがおかしい。世論調査では、原発再稼働反対が国民の過半数を超えていても再稼働が強行されてしまう。

このようになったのはなぜか。

反対だがそれは他人事。

自分に直接に降りかかってくる禍でないから真剣には関わらない。

そういうことではないのか。

原発再稼働が自分にも直接降りかかっている禍であることを訴えることができれば、原発を廃炉にするための市民運動を継続して実現できるのではないのでしょうか。

では、どうすればそれが可能となるのか。60年前に日本の母親の声が世界世論を動かした実例を紹介して、考えてみましょう。

1954年3月1日、アメリカが太平洋ビキニ環礁で行った水爆実験で、日本のマグロはえ縄漁船・第五福竜丸やその他たくさんの漁船が被ばくしました。被害は水産物にも及び、日本各地の港では放射性物質に汚染されたマグロが相次いで水揚げされました。

しかし、時代は東西冷戦。ソビエトとの核開発競争に負けられないアメリカは、その後も核実験を繰り返します。放射能で汚染されたマグロは水揚げされ続け、やがて、放射能の雨までが、日本に降り注ぐのです。お魚も食べられない…。野菜も危険だ…。うっかり、水も飲めない…。矢も盾もたまず立ち上がったのは、母親たちでした。

一人の東京都北多摩郡の43歳の母親の新聞への投書がきっかけでした。

-----「仕方がない」と言いながら怒ることも驚くことも忘れている夫の無力なあきらめをわたしは軽べつした。-----

するとすぐに横浜市南区の28歳の女性が呼びかけました。

-----男性たちを軽べつしたまま放っておかず、逆に辛抱よく励ましていこうではありませんか。そして気の合った奥さん同士偽らぬ心で率直な意見を交換し合い、婦人大会などにも進んで出かけるようにしたらいかがでしょうか。-----

この「安全に暮らしたい」との声は日本全国に広がり、「核実験反対」の署名を求める声が町中に響き始めました。3000万もの署名が集まる1年4ヶ月前のことでした。

この市民運動は世界各国にも広がり、そして1955年8月6日に広島で開催された第一回原水爆禁止世界大会へと発展してゆきました。

そのとき発表された署名総数は、31,583,123と日本の成人人口の約半数ともなり、同時に世界各国で6億以上の署名が集まったと紹介されました。

このような国際世論の「核実験反対」の声は大国を揺り動かし、1963年には部分的核実験禁止条約の締結へと結実しました。

(2009年2月18日に放送された、NHK・その時歴史が動いた「3000万の署名、大国を揺るがす～第五福竜丸が伝えた核の恐怖～」より)

いまは正に、60年前のこの市民運動を教訓として、わたしたち市民が立ち上がり、原発再稼働の流れを止め、原発廃炉を目指した市民運動を展開するときではないのでしょうか。

その市民運動が可能となるのは、「自分に直接に降りかかってくる禍でないから真剣には関わらない。」ということを逆に利用することではないのでしょうか。

さらに、9月19日未明には、安全保障関連法案、通称戦争法案が、参院本会議で可決されてしま

いました。野党や学者から「違憲」との指摘が相次ぎ、報道各社の世論調査では反対が賛成を上回るなか、政府・与党は批判を押し切って可決してしまいました。憲法9条の解釈を変え、海外での武力行使を可能にした戦争法案の成立で、自衛隊の役割は大きく転換することになってしまいました。

この戦争法案をめぐる国会論議が見せつけたのは、日本の政治がひどく劣化しているという現実だったのではないのでしょうか。説得の力を欠く指導者、闊達さを失った政権党、半数近くが棄権する有権者。

嘆いてばかりはいられません。政治家任せにせず、国民の手で政治を、そして民主主義を鍛えなおすその時がいまなのではないのでしょうか。

そのことを、9月15日の国会での中央公聴会において、明治学院大学生で学生団体「SEALDs」の奥田愛基さんは意見の中で述べました。

「まず第1にお伝えしたいのが、私たち国民が感じている安保法制への大きな危機感です。この安保法制に対する疑問や反対の声は、現在でも日本中で止みません。つい先日も国会前では10万人を超える人が集まりました。しかしこの行動は何も、しかも東京の国会前で行われているわけではありません。私たちがインターネットや新聞などで調査した結果、日本全国2000カ所以上、数千回を超える抗議が行われています。累計して130万人以上が路上に出て声を上げています。この私たちが調査したものや、メディアに流れているもの以外にも、たくさんの集会があつてもこの町でも行われています。まさに全国各地で声が上がリ、人々が立ち上がっているのです。また、声を上げなくも疑問に思っている人は、その数十倍もいるでしょう。

強調しておきたいことがあります。それは、私たちを含め、これまで政治的無関心といわれてきた若い世代が動き始めているということです。これは誰かに言われたからとか、どこかの政治団体に所属しているからとか、いわゆる動員的な発想ではありません。私たちはこの国の民主主義、未来について、主体的に一人一人、個人として考え、立ち上がっているのです。

一つ、仮にこの法案が強行採決されることがあれば、全国各地でこれまで以上に声上がるでしょう。連日、国会前は人であふれかえるでしょう。次の選挙にももちろん影響を与えるでしょう。当然、この法案に対する野党の方々の態度も見えています。本当にできることはすべてやったのでしょうか。私たちは決して、今の政治家の発言や態度を忘れません。3連休を挟めば忘れるなんて国民を馬鹿にしないでください。むしろそこからまた始まっていくのです。

新しい時代はもう始まっています。もう止まらない、すでに日常の一部になっているのです。私たちは学び働き、食べて、寝て、そしてまた路上で声を上げます。できる範囲で、できることを、日常の中で。私にとって政治のことを考えるのは仕事ではありません。この国に生きる個人としての不断の、そして当たり前の努力です。私はこの困難な4カ月の中でそのことを実感することができました。それが私にとっての希望です。」

わたしはみなさんに訴えます。

政治活動がやりづらいと言われてきた、この日立市で政治を主権者である国民に取り戻す市民運動を展開するそのときがやってきたと、

日立市が変われば日本が変わるとの意気込みでその市民運動をやり抜いてゆきたいと思っていますと。

みなさんに呼びかけます。

毎月第四日曜日午後2時から約1時間、日立駅前

「さようなら原発 さようなら戦争日立駅前行動」

を実行しますと。

わたしひとりでも開催しますので、

みなさんつぎに来るときは新たな友といっしょにおいでください。

みなさんの声をお互いに出し合い、仲間を増やして、大きな流れをつくりましょう。

この行動は、原発の再稼働の流れが止まるまで、

そして戦争法案が廃止になるまで継続して実行いたしますので、

是非日立駅前にお集まりください。

なおわたしの都合がつかない場合には E メールアドレスのわかっている方にはお知らせいたしますが、そのときでも、どなたかがこの行動を行っていただければうれしく思います。

あえて具体的な団体は組織することはいたしません。

個人参加で大きな流れを作ることを目指したい。

そして日本の形を大きく変える何らかのきっかけを日立市から作りたいと思っています。

2015年09月25日

連絡先

E メール [masanori.kobayashi.kuutenki@vc.ibaraki.ac.jp](mailto:masanori.kobayashi.kuutenki@vc.ibaraki.ac.jp)

電話 0294-24-4176